

1 学校教育目標
「平成29年度県立学校における教育指導の重点」及び「平成29年度人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」及び教育スローガン「求学志成」のもと、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 自主的精神を高め、自らを律する態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力向上を図るとともに、生徒自ら問題を解決する力の育成に努める。
(2) 基本的生活習慣の確立と安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。
(3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、創造性や感性を育む体験活動の推進に努める。
(4) 地域の拠点校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

3 自己評価総括表							
大項目	評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
	小項目						
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「教育の日」及び土曜日を活用して、保護者や地域の方々に授業や発表会などを積極的に公開する 近隣の小・中学校、また県内の高校にも案内し、連携を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する 教務部が立案し、体験入学を実施する 	A	<p>【○】公開授業に関しては、6月と11月に各2週間ずつ実施できた。期間中に土曜授業を設定し、多くの保護者・地域の方の参観があった。</p> <p>【○】体験入学は8月1日(火)に実施し、中学生304人、引率職員1人、保護者68人の参加があった。昨年度の日程と異なり8月の実施であったが、中学生の参加には影響はなかったようである。</p>	
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る 生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する 中学校を訪問して、学校紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、学校HPの更新頻度を高める 教務部が中心となり、学校紹介DVDを作成し、広報に用いる アンケートを実施し、広報活動に反映させる 	A	<p>【○】頻繁にHPを更新し、昨年度より学校のできごとをタイムリーに数多く発信することができた。また、本年度からのSSH関係の内容更新は45回に及んだ。</p> <p>【○】学校紹介パンフレットはSSH関連を追加し、各所で好評であった。</p>	
		学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員を含めた活発な意見交換の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組について事前に資料を提示し協議の時間を確保する 	B	<p>【△】第2回の資料提示が会議の直前となった。資料を読み込んで頂くためにも、余裕を持ち早目に資料作成に取り掛かるべきであった。</p>	
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会や学年別保護者懇談会の充実を図る あいさつ運動等諸行事への保護者の積極的な参加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部及び各学年が立案し学校全体で取り組む メール配信サービスを利用し、積極的に学校行事への参加を促す 	B	<p>【△】参加しやすい時間や形態をもっと研究する必要がある。</p> <p>【○】メール配信を利用して参加の呼びかけはできた。ひとりの参加者から、多くの人を誘ってもらえると良いと考えている。</p>	
	安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止に対し全職員で主体的に取り組む雰囲気醸成する 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を定期的実施する 職員朝会を通じて適時リスク管理について啓発を行う 	A	<p>【○】職員研修の中で年間予定に従い研修を実施することができた。また、職員朝会での啓発とともに、通知文等をデータ化し共有スペースに掲載し啓発を図った</p>	
教育環境の整備	学習環境の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた生徒の学習支援を行う 生徒の自主的な学習環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> 考査や模試の結果を受け、担任・教科面談を通し、生徒個々の課題を明確化し、学年、教科間の連携を図り、課題解決の支援を継続的に行う 3学年部が企画し、土日祝日に学校開放を行う 	A	<p>【○】受験指導が本格化する6月から担当を決め実施した。1日40人～60人の3年生が活用していた。定期考査前には1・2年生も活用できるよう協力して行った。自学できる意識や力を付けることが目的であり、より良い学習環境を求めて行動できる力を育てることに有効な取組みといえる。</p>		

	学校改革	校務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選と業務時間の見直しを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに学校改革委員会を立ち上げて具体策を立てて提案していく 	A	<p>【○】年間9回の委員会を開催し、職員への周知説明を丁寧に行いながら具体案をまとめることができた。</p>
		授業改革	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が授業を改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャー（指導教諭）が職員の授業を参観し、様々なアドバイスを行う ・授業改善のノウハウを獲得するためにスーパーティーチャーの授業を参観する機会を職員に提供する ・2学期末に授業に関する調査を行い、改善状況を把握する 	A	<p>【○】公開授業期間を活用し、多くの先生方がスーパーティーチャーの授業を参観できたようだ。また、各教科でもスーパーティーチャーによる参観授業も行われ、各自の授業改善に努められていた。</p> <p>【○】2学期末に本年度2回目の授業改善アンケートを実施した。どの先生方も1学期の結果を受け、改善されおり、評価も挙がっている。また、本年度から先生方へ配付するアンケート結果票を見やすくリニューアルし、前年、前回の結果との比較ができるようにした。</p>
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・予習の徹底と天高チャレンジ1500分（1週間の学習時間）の家庭学習を促させる ・宅習1500分を目標に、宅習時間を確保する ・毎日の授業に対する課題設定や週末、長期休暇前の課題を教科間で調整しながら、行事等の状況に応じて適切な学習習慣を促す ・進路実現に向けた取組の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる（教務） ・保護者に結果を知らせる ・手帳Foresightに翌日の課題、学習計画と宅習時間を記入させ生徒の学習スタイルを把握しアドバイスする ・各月ごとに宅習時間調査を行い、担任から生徒へのコメント等を通じ、学習習慣の適正量を個々の生徒に提示する ・6月からの切り替えで平日5時間、休日10時間をキーワードに日々の家庭学習時間を確保する 	A	<p>【○】6月と10月の2回実施をした。結果は例年と変わらず目標値週1500分を達成できた生徒が増加した。</p> <p>【○】3学年としては、平日5時間、休日10時間をキーワードに日々の家庭学習時間調査を実施し学習バランスのコントロールを担任が行った。</p> <p>【○】年間2回の宅習時間調査以外に、月行事を載せた毎日の宅習時間調査を行い、担任からのコメントを添え、各生徒の宅習状況の把握に努めた。また、手帳との両立を図るため宅習課題のメモをその日の終礼時に記入し、計画的に学習を進める手立てとした。</p> <p>【△】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅習時間は10月平均800分未満と目標の半分、さらに6月よりも100分減少。基礎学力向上のための学習時間確保が課題。 ・手帳の活用状況を担任が面談等で確認したが、連絡事項の記入のみにとどまった。継続的指導が必要。 <p>【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月と12月の2回実施を行った。1500分達成できた生徒の増加は見られなかったが、学習の質の向上に向けた取り組みは、学力向上にもつながった部分が見られた。 ・手帳の活用については、継続的に利用を行う機会を設けることで、定着する生徒が多くみられ、先の見通しや過去の振り返りへの意識が向上した。 <p>【○】平日5時間、休日10時間をキーワードに日々の家庭学習時間調査を実施し学習バランスのコントロールを担任が行った。</p>
		3年間を見通した指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者会を実施し計画的な学習を進める ・生徒の実態を把握して計画の改善を随時行う ・生徒の実態を把握し授業計画改善を行う ・年間計画に沿った学習指導の実践と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に授業担当者会を学年ごとに実施し進捗状況の確認と意見交換を行う ・学期末に教科書の進捗状況を調査する ・学期ごとの考査・模試、各種調査、授業評価に基づいて検討する ・考査や模試結果、授業評価等を参考にして検討する ・年度初めに授業担当者 	A	<p>【○】年度当初に各学年、授業担当者会を実施した。本年度は1年間の計画とともに、支援を必要とする生徒の共通理解を図ることもできた。</p> <p>【○】3学年では、4月と9月に授業担当者会を開催した。9月は生徒の成績推移などを交えながら授業進捗の確認ができたので有効であった。</p> <p>【○】各学年で年間に複数回学力検討会を行った。学年でたくさんの共有ができ生徒の意識付けができた。</p> <p>【○】4月の授業担当者会でシラバス検討を行った。また、定期考査や模試ごとの成績についての検討会を実施し、</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者同士の連携 ・協力 	<ul style="list-style-type: none"> 会を開き、年間計画、及び生徒の状況確認を行う。学期ごとの考査・模試、各種調査、授業評価に基づいて検討し、改善を含めた修正を行う ・4月と9月に授業担当者会を開催し、成績推移を交えながら授業の進度確認を行う 		<p>修正を含めた進捗状況の確認を実施した。</p> <p>【○】4月の授業担当者会で年間系カウを行い、7月、11月の模試等の成績状況を受け、8月と1月に学習内容の定着を確認し、授業の進捗状況の調整を行った。</p> <p>【○】学力検討会を12月に実施することで3学期と2年生に向けた長期展望にたった指導が可能となった。</p> <p>【○】4月の授業担当者会で年間計画を行い、7月、11月の模試等の成績状況を受け、8月と1月に学習内容の定着を確認し、授業の進捗状況の調整を行った。</p> <p>【○】4月と9月に授業担当者会を開催した。9月は生徒の成績推移などを交えながら授業進度の確認ができたので有効であった。</p>
		習熟度別学習の実施	・国数英それぞれ学習到達度に応じた学習を行う	・学期ごとに到達度を確認しクラス替えを行う	A	<p>【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受け、定期的にクラスを編成している。効果的に授業が展開できている。</p>
	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教科で年間2回以上の研究授業を行う ・教材研究の質の向上を図る ・作問力の向上を図る ・分析力の向上を図る ・模試分析力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む ・教科内・教科間を超えて切磋琢磨しながら授業力の向上を図る ・授業に入る前の検討会を実施する ・生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する ・定期的に、教科会で検討する ・熊大・九大+1（東大）の問題を4月第2週までに解答する ・定期考査問題の教科内での検討会を意欲的に行う ・現状を多角的かつ的確に把握し適切な対応を行う ・熊本大学、九州大学、難関大学1つ以上の問題を夏休みまでに解答する ・模試データリリース直後に全職員に結果を還元する 	A	<p>【○】公開授業期間では活発に他教科・他学年の授業参観ができています。各自の授業改善に寄与できている。</p> <p>【○】昨年よりも各教科の研究授業の実施が増加した。授業研究会に他教科の先生方も参加できるような時間の余裕があればと思う。</p> <p>【○】生徒一人ひとりに対して具体的・明確な提示ができています。</p> <p>【○】教科会が定期的に開催さら、質の向上が図られている。</p> <p>【△】入試問題の解答については、担当学年や教科により状況に差がある。 〔対策〕担当学年や教科の状況に応じ、教科で研鑽方法を検討し実施する。</p> <p>【○】考査問題検討は意欲的に行われている</p> <p>【△】現状把握に努め、丁寧に対応が行われている。 〔対策〕生徒の家庭学習状況等を精査し適切適量な学習課題を準備する。</p> <p>【△】入試問題分析については、前期入試が実施された直後に各教科で分析を行うことが望ましい。</p> <p>【○】模試データリリース直後に進路指導部が分析したデータを還元できた。</p>
キャリア教育・進路	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の希望進路100%達成を目指す ・難関大学合格10名以上を含め現役による国公立大学90名以上を目指す ・1、2年生は国・数・英で模擬試験において偏差値52以上を 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では進路検討会を5回以上行い担任が生徒にアドバイスを行う ・確認考査、単元テストなどの小テストを行い、受験基礎力を養成する ・2者面談や教科面談を 	A	<p>【○】進路検討会は、合計5回実施した。目的、資料、内容の充実も図られたと言える。</p> <p>【△】数学、英語とも習熟度や分野別の特別講義を実施し、学寮の定着向上に努力した。受験学力の定着に向けた指導力の向上が望まれる。</p> <p>【○】小論文対策については総合的な学習の時間で取り組んではいるものの</p>

指導		<ul style="list-style-type: none"> 目指す ・3年生の全科目で模擬試験において偏差値50以上の人数が過去5年間の平均より上回ることを目指す ・センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 行う ・小論文対策の早期化と継続を図る ・推薦、AO入試対策として専門分野の強化を図る 		<p>文章表現力において課題があり、細やかな指導が今後も求められる。</p> <p>【○】推薦・AO入試対策については、小論文や面接指導を全職員で取り組むことができた。</p>
	総合的な学習の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路についての意識を高めさせる ・知の注入とともに自分の考えを表現させる ・深い学びを通じた進路選択指導 ・自らの適性に合った進路選択に向けた学習活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の計画に基づき、面談等で生徒の状況を確認しながら実施する ・討論会や調査内容の発表等の場を設ける ・インターンシップおよびキャリア教育を推進する ・3年間を通じて、1年次には職業観の育成、2年次には学問観を深め、3年次には自らの適性に合った進路選択に向けた学習活動を行う ・3年間の計画に基づき面談等で生徒の状況を確認しながら実施する 	A	<p>【○】3年間を見通した計画に従って、概ね順調に進んでいる。</p> <p>【○】全生徒に手帳を持たせ、自己管理能力を高めさせる指導を行った。将来の生活に是非とも必要なことであり、限られた時間を有効に活用する意識が今後も高まっていくことを望んでいる。</p> <p>【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に学部研究を行い、夏休みにオープンキャンパスを行うことで、自らの適正を知り、選択肢の具体的検討を行った。
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	<p>進路意識の高揚・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、年間20回程度の進路情報を提供する ・各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンスを実施する ・調査研究による社会と学問のつながりを深く学ぶ場を提供する ・学校と家庭の連携による包括的な進路意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引き『求学志成』と、「進路ニュース」を作成する ・学年ごとに時期、段階とニーズにあった内容で講演会を実施する ・受験形態を熟知し、生徒の個性に合った進学指導を実施する ・調査結果の発表場所を提供する ・進路講演会、保護者学習会を実施する 	A	<p>【○】『求学志成』は予定通りのものを作成することができた。</p> <p>【○】「進路ニュース」については今年度から形式を変え、19回発行することができた。</p> <p>【△】受験形態は年々複雑になり、全体の把握は難しい。新しい情報を常に仕入れながら、チェック機能を十分に働かせる必要がある。</p> <p>【○】各種講演会については、優れた講師陣に来ていただき有意義であった。</p> <p>【○】7月に生徒・保護者に向けた進路講演会を12月には生徒向けの講演会を実施した。また、2月には保護者向けの進路学習会を実施。社会に生きるために必要な学力の育成や、受験に向けた基礎知識を共有する機会となった。</p>
	進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談を実施し、個に応じた進路指導の充実を図る ・教師が教科指導力を高いレベルで養い、いかなる大学進学に対しても積極的指導を実践する ・高い進路目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に2回以上、二者面談を実施する ・進路指導部が大学や入試などの情報を積極的に提供する ・生徒の進路希望や学習状況を定期的な面談を通じて確認し、それぞれに合った高い目標設定を行う 	A	<p>【○】面談等の目標値は概ね達成できている。面談については、学校行事に織り込んで、重要な取組であることを共有していきたい。</p> <p>【△】進路指導部からの情報提供は、まだまだ不十分である。進路指導主事の時間的な余裕も必要である。来校者の対応や事務処理に時間が割かれている現状がある。</p> <p>【○】学期2回の二者面談や、夏の三者面談はもちろん、必要に応じた担任面談を通して生徒理解に努め、教科との連携を図ることで、生徒の状況に合った指導を継続的に組織的に行った。</p> <p>【○】3学年では2者面談を通して進学に対するアドバイスや学習の心捗状況、悩みの相談など、時期的に応じた指導が細かく実践できた。</p>

生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、生徒朝会を実施する ・年3回以上の一斉委員会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自ら運営に携わる ・生徒指導部職員が指導助言を行う 	A	<p>【○】生徒会執行部を中心に、毎月第一週に実施することができた。</p> <p>【○】生徒一斉委員会を生徒朝会の前日に実施することで、生徒朝会の活性化を図れた。</p>
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・完全下校時間を30分早める ・顧問割当の再編を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動時間を短縮することで、活動内容を見直し、効果的な練習に取り組む ・大会において引率顧問が不足する場合は、担当部活動の枠を超えて補う 	B	<p>【△】年度初めは、各部活動とも慣れない様子であったが、職員の継続的な声掛けも有り、下校時間への認識も高まった。活動内容の改善については、各部活動で課題を持って取り組んでいる。</p> <p>【△】大会等で担当顧問が引率できない際に、他の職員が引率を代行し、補うことができた。しかし、顧問数の不足は解消されていない。</p>
		ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒企画のボランティアを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部依頼のボランティアに限らず、生徒会や部活動企画の奉仕活動を積極的に実施する 	B	<p>【△】ボランティア委員会による校内環境整備作業を1件行い、12名の参加があった。部活動によるボランティア活動も数件実施された程度であった。</p>
	基本的生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回以上の登校指導の実施。 ・交通違反0を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に全職員参加の登校指導を行う ・原付バイク通学生の集会を実施し、具体的な事故・違反事例を取り上げる 	B	<p>【○】全職員による登校指導は年度当初に一度実施しただけであったが、生徒指導部職員の毎朝の声掛けや月に一度のあいさつ運動などを通して登校状況の定期的な把握に努めた。</p> <p>【△】月に一度の原付バイク通学生集会で、様々な観点から安全運転について語りかけることで、生徒の意識が高まった。昨年度より事故、違反ともに減少したが、交通違反0を達成することはできなかった。</p>
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回以上の頭髪服装検査を実施し、違反0を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、掃除といった日常生活での場面を指導の場と捉え、ルール遵守の意義を生徒に伝える 	B	<p>【△】服装頭髪検査を年間8回実施した。全職員による指導の徹底を図り、日常の中での指導にも繋げることができた。各学年ともに再検査「0」を目指し指導に当たったが、完全ではなかった。</p>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	いじめの根絶(生徒)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許されないことであることを生徒に理解させる ・いじめ根絶に向けて、実態把握と迅速な対応を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上のいじめに関するアンケートを実施する ・全職員で生徒情報の共有をし、連携を密にする 	A	<p>【○】生徒の心の状態を把握するため、年3回「いじめアンケート」「心のアンケート」を実施した。各学年会で気になる生徒の状況を報告・共有し、担任と連携して生徒の実状に応じた迅速な指導を行うことができた。</p> <p>【○】いじめ防止対策委員会で具体的な生徒の事例を挙げながら、外部委員(SSW)の方のアドバイスをもとに、対策を講じることができた。</p>
		命を大切にすることを育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職員及び生徒に「命を大切にすることを育むことの重要性について理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切にすることを育む」について考えさせる全校集会・LHRを企画・実施する 	A	<p>【○】友人との関わり方や同和問題、就職差別の実態などについて、人権LHRの時間などをとおして生徒の理解を促すことができた。</p> <p>【○】1月に天草市人権擁護委員の方を講師として「デートDV」に関する人権集会を実施し、自分自身や周りにいる人たちの心と身体を守ることの重要性について実感させることができた。また各学年から人権関連の研修やフォーラムの参加者を出し、学んだことを学年で共有してもらった。</p>
		教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上生徒支援委員会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を分析し、担任に指導助言を行う 	A	<p>【△】カウンセリング委員会は2回の実施となった。</p> <p>[対策]年間5回以上という目標実施回数を検討し見直す。</p> <p>【○】生徒の状況把握や協議を行い、協議内容は学年で生徒への支援に生かすことができた。</p> <p>【○】カウンセリングの時間が年間66時間と十分に確保され、生徒・保護者・教職員ともに昨年度より充実した相談を行うことができた。</p> <p>【○】休学中の生徒や、学校生活への不</p>

						<p>安感から体調不良を起こしやすい生徒が、不安感を軽減し、家庭や学校での生活を維持できており、カウンセリング効果が得られた。</p> <p>【○】カウンセリング用PCと、カウンセラーが記録するための時間を確保することで、即日報告書作成が可能になった。カウンセリング後の担任へのフィードバックがスムーズに行えた。</p>
	豊かな人間性の育成	読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の1人当たり14冊以上を目指す 「朝の読書」を徹底させる 利用率の増加（貸出数0冊の生徒を減らす）を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 良書の選定と、「図書館便り」の充実及び年間10回以上の発行 全職員、全生徒で一斉に行う 多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける 	A	<p>【○】生徒一人当たり貸出13.0冊（2/10現在）と若干減少したが県平均6.1冊を上回った。</p> <p>【○】「職員室文庫」を新設し、教職員に対して時期に応じた迅速な資料提供を試みた。HP・ブラックボード・昇降口を活用し、資料情報や講演会情報などを日々発信した。</p> <p>【○】授業利用は1185時間（総合的な学習の時間・国語・コミュニケーション英語など）。また個別入試に向け毎日自学利用されている。</p>
		人生観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人生観と職業観を養う講演会や講義を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々や同窓生を講師に招く HR活動を通じ、担任や学年、または外部講師を招へいし、生き方・あり方について考えさせる 	A	<p>【○】SSHの授業や講演会、天高総合大学など、様々な講演会を通して地域の課題を知り、人生観・職業観の育成に繋げることができた。</p>
		道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する 	A	<p>【○】人権教育講演会やEU講演会などを通じて、自分の生き方を振り返るきっかけとすることができた。</p>
健康安全教育の推進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 治療勧告生徒の受診率を向上させる 生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前や定期考査前を日処に治療勧告書を渡し、治療の必要性を呼びかける。 健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる 	A	<p>【○】う歯・視力の受診率向上を目指し、学年との連携や面談の結果、2/7現在で視力は43.4%、う歯は42.9%（昨年度36%）。選抜試験前に再勧告を行う。</p> <p>【○】健康観察および担任との情報交換により、生徒の様子を把握でき、感染症の対応や、保健指導に役立てることができた。</p>
		環境美化の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 時間一杯清掃し、校内美化に努める ごみの分別を習慣化する 学校版環境ISO活動（エコスクール）に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立てて計画的に実施する。 全生徒が掃除にあたり、担当職員が率先垂範して指導にあたる 分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る エコスクール推進委員会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む 	A	<p>【○】掃除時間、細やかなところまで清掃をしていた。廊下のごみ箱のごみの分別を今後徹底していくことが課題である。</p> <p>【○】学期ごとに美化コンクールを実施した。クラスで競い合い、同率一位のクラスが多数出るなど、レベルが年々上がっており意識が向上したことがうかがえる。</p> <p>【△】毎月エコスクールチェックを行う計画であったが、業務削減のため年各学期1回に変更した。水道使用量は前年度比78%、電気使用量は108%で、節電を進める必要がある</p>
		整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期、安全点検を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する 安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う 	A	<p>【○】定期的に安全点検を実施することができた。危険箇所・修繕箇所については事務部へ速やかに報告し、教育活動における生徒の安全確保に努めた。</p>
いじめの防止等	指導体制の組織的整備	組織的実効的活用	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策拡大委員会」を実効的に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の作成・実行・検証・修正の中核的役割を果たす 情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う 	A	<p>【○】学年の連携がとれあらゆることにも対応できた。</p>

	未然防止及び早期発見のための取組みの強化	いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> 互いの良さや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する 自分と他人を大切にし、尊重し合う校風を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し一人ひとりの心に迫る 担任の面談やHR活動での協働活動を生かす 	A	<p>【○】担任による個人面談を数多く実施し、少しでも心配のある生徒がいる場合は、即座に対応できる体制を整えた。</p> <p>【○】担任、副担任の連携がよく学年でも日々色々なことを共有できている</p>
		いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめほどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する いじめに対する意識を高く持ち情報共有を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談やアンケート等を定期的実施し、積極的な実態把握に努める 面談や各種アンケートを利用する 	A	<p>【○】年3回「いじめアンケート」・「心のアンケート」を実施し、生徒の心の状態を把握に努めた。また、週一回の生徒指導部会と各学年会で気になる生徒の状況を報告・共有し、担任と連携して個別の生徒の実情を把握した。</p>
		いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 解決に向けて組織的に迅速な対応を行う 組織的に対応し早期解決をする 	<ul style="list-style-type: none"> 「対応マニュアル」に従い情報収集と記録確認を行い、組織的に迅速に解決する 情報収集と対応の共通認識を図り、正確に記録を残す 	A	<p>【○】いじめの疑いがあるものについても、状況を詳細に把握し、改善するために積極的に行動、連携できた。学期ごとのいじめ対策委員会でのSSWや評議委員の助言も参考に対応に取り組んだ。</p>
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災型コミュニティスクール	地域連携の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域や自治体等と連携した防災対策の基盤を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や自治体とともに近隣学校とも連携や情報共有を行う 	A	<p>【○】学校運営協議会を3回開催して、避難所運営マニュアルの検討を行った。</p>
	高校間の連携	地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 天草地域の高校の取組を地域住民に周知し、魅力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 天草地区の高校が中学生、保護者、教職員に魅力を発信する機会を企画し、実施する 	A	<p>【○】「天草地区高校魅力発信フェス」と題し、全ての天草地区普通高校と連携し実施・啓発を行うことができた。</p>

4 学校関係者評価

・大学入試改革に対する高校の取組に関心を持っている。最新の情報を捉え、状況を把握しながら準備態勢を整えるとともに、自らの進路に興味・関心を持ち主体的に学ぶ生徒を育む手立てとして、SSH研究を柱にした学習活動や自学形式の朝課外の導入等により見直し・改善を図り、教育の充実に繋げて欲しい。

・ボランティアに対する視点は大事である。ボランティア活動は「生きる力」に繋がる学びの機会であり、「お手伝いをさせていただいている」という気持ちがなければ相手に見透かされる。ボランティア精神の根源の部分について学校でしっかりと押さえて欲しい。

・本校職員の勤務状況の確認および職場環境の整備等を推進して欲しい。日頃の観察とともに超過勤務該当職員に対して定期的に産業医面談を実施しながら、個々の状況把握に努めて欲しい。

・生徒の素直さ、学力の伸び具合、卒業後の活躍など、本校の状況について日頃より注目している。地域の方々に支えられていることを強く感じるとともに、生徒・保護者や地域の期待に応えられるよう取組を充実・深化させてもらいたい。

5 総合評価

・交通安全関連の取組については特に評価が高く、あいさつ運動（生徒会、育友会の共同実施）、職員の有志による早朝の登校指導、原付バイク通学生に対する生徒指導部の丁寧な指導、全職員による日常的な交通安全指導・啓発が奏功していると思われる。また、地域からの声に対する迅速な対応と生徒周知など、生徒に対する啓発が頻繁に行われているため、生徒の印象に強く残っていると考えられる。

・講演、講話等の有益感、充足感については、1年生の数値が高い。1年生に対しては、SSH研究の一環として「天草学連続講義」（計8回）をはじめとする講演等が数多く開催され、地元天草への興味・関心を高めながら、講義内容を自らの知見として取り入れる姿勢・態度が育まれたためと考えられる。

・生徒の健康状況の把握については、昨年からの上昇幅が大きい。保健室・保健部による健康観察の徹底および担任との情報交換がなされており、生徒の様子の詳細な把握ができ、保護者への連絡・説明がスムーズであった。教育相談においては、状況把握や協議等の取組が充実しており、取組が生徒支援に生かされている。各校務分掌と学年団との連携及び組織的運営により、保護者の信頼感・安心感の向上に貢献できたものとする。

・進路指導に関する学校と家庭との連携については、12月実施の3年生のアンケートでは他の学年よりも評価が高い。進路目標の実現に向け、三者面談等を経て生徒・保護者と担任が密に関わり合い、家庭で話し合う機会も増え、担任、学年、学校への信頼感が高まったと考えられる。

・防災・減災に関する取組については、防災型コミュニティ・スクール研究指定を受け、学校運営協議会を立ち上げ、地域の避難所として機能するための「避難所運営マニュアル」の作成に取り掛かった。数回の協議会を経て年度後半にマニュアルが整い、従前の避難訓練に加え津波や地震を想定した防災避難訓練を実施した。また、職員研修により共通理解を図った。これらの取組により、防災に関する意識は着実に高まっている。

・ホームページ等を活用した積極的な情報発信について、HP更新に至る手続きの簡素化に着手し、HP更新のペースが早まった。多くの人々に簡単に閲覧できるための工夫として、QRコードによるリンクの簡素化、本校HP上でアンケート調査実施やイベント参加申込を行うシステムを導入し、手続きの簡素化と負担軽減を試みた。今後も様々な発想やアイデアを運用に取り入れ積極的に活用していきたい。

6 次年度への課題・改善方策

1 課題

- (1) 生徒に時間を返し、自発的に学習する生徒を育成する。
- ア 講義形式の学習において受け身の学習から脱却できない状況も見られる。また一斉授業の形態では個々の習熟度に応じた指導が難しい。
 - イ 土曜授業と部活動の各種大会が重なることが多く、土曜授業を受講しないケースが見られる。
 - ウ 週2回（火曜・木曜）の7限授業日に、部活動等の時間確保が難しい。
- (2) 教職員の長時間勤務を縮減し、本来業務である「授業の充実」や「問題作成能力の向上」に時間を費やせるようにする。
- ア 平日の授業やクラス経営に加え、朝・夕の課外授業や部活動等が盛んであるため、土曜授業の振替休日取得が難しい。
 - イ 朝課外の担当者は国・数・英等の限られた職員となり、負担が一部に偏っている。

2 改善案

- (1) 生徒に時間を返し、自発的に学習する生徒を育成する。
- ア 1・2年生については、講義形式の朝課外を、自学形式の「朝自学」に転換する。また、習熟度に応じた難易度別の課題を作成し、自力で解答する場を設ける。
 - イ 土曜授業をなくすことで、土曜の大会出場による欠課をなくす。また部活動や家庭学習の時間の確保に繋げる。
 - ウ 下校時刻は従来のまま、日課を変更して終礼の時間を繰り上げることで、放課後の時間を生み出し、部活動の活動時間と家庭学習時間の確保を実現する。
- (2) 教職員の長時間勤務を縮減し、本来業務である「授業の充実」や「問題作成能力の向上」に時間を費やせるようにする。
- ア 土曜授業をなくすことにより勤務日を減じ、教職員が教育活動に専念できる適切な労働環境を確保する。
 - イ 自学形式に転換することにより、自学監督を多くの職員に割り振ることで負担の偏りをなくす。